

菜畑遺跡

～国指定史跡～

■菜畑遺跡（なばたけいせき）

唐津市の南西部、衣干山から延びた低丘陵の先端部に立地する。東側には松浦川によって形成された砂丘があり、当時この一帯はその砂丘の後背湿地であったと考えられる。

昭和54年、都市計画街路事業に伴う確認調査で発見され、昭和55・56年に唐津市教育委員会によって発掘調査が実施された。

発掘調査の結果、住居跡・土壇墓・甕棺墓・水田跡・井堰・貝塚が検出され、縄文時代前期から弥生時代中期にかけての遺跡であることが確認された。水田跡は畦畔や矢板列によって区画されており、縄文時代晩期から弥生時代中期にかけて数期にわたる変遷が明らかになった。最下層の水田跡からは、炭化した米や木製農具とともに縄文時代晩期後半の土器が出土し、現在確認できる日本最古の水田跡として注目を集めるところとなった。

遺物は多数の土器の他に、石器、木製農耕具、漁具、容器、装身具等があり、また自然遺物も多く出土している。

現在、遺跡は保存整備により竪穴住居や水田が復元され、資料館「末盧館」も建設されている。

昭和58年5月11日指定

唐津市菜畑字松円寺3355-1

集落跡

分野 歴史

地域 唐津

◎地図・写真・統計資料など



菜畑遺跡にある「末盧館」



発見当時の菜畑遺跡
縄文時代晩期と判明し、日本最古の水田跡と決まった。



水田跡から出土した壺、甕、
浅鉢などの土器。

（『唐津市の文化財』より）

◎引用・参考文献（出典）

◆『佐賀県の文化財』

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html